

アコと人生…この人にインタビュー《第5回》「田中洋平さん」

所属する「越谷アコーディオンサークルかえるのこ」の草分けの一人で、'05年から「埼玉アコーディオンサークル協議会」会長を務め地元の公民館、町会の祭り、喫茶店などでと伴奏する機会も増え、忙しいけれど大変楽しんでおっしゃる田中洋平さんに、上野はアメ横近くの喫茶店にてお話を伺いました。

♪亀戸で生まれ東京大空襲に会う

1942年8月江東区亀戸で生まれ、3歳だった1945年（昭和20年）3月、東京下町地区を襲ったB29による「大空襲」に会う。自分たちは亀戸天神の池に入って難を逃れ秋田に疎開したと後に親から聞いたそうです。（18歳まで秋田で暮す）

♪アコーディオンとの出会いは

東京に戻り1962年20歳のとき蕨市役所に入る。翌年頃埼玉合唱団で開催した第一期アコーディオン教室に通い始める。それというのも、就職してまもなく職場で労働争議が始まりウクレレが弾けるんだから楽譜が読めるだろうと白羽の矢が立ち“アコ伴をやれ”と、そんなことがきっかけだったといいます。



当時の教則本（音楽センター発行）↑

埼玉県には鋳物や金属加工の工場がたくさんあり、当時あちこちで争議が起きていた。蕨市も同様に市民運動が活発な地で、市職労も地域との交流を重視していてそういう人たちを励ますために楽器を持って歌って来い『技術じゃない、気持ちなんだから』と行かされあちこちで恥をかくことに、即実践だったから早くうまくなりたい思いで、2年位休みの日は夢中になってやったことが現在に繋がっていると思う、と…そんな時期に組合の三役が解雇され、（後に原職復帰）田中さんにも役が回ってきてアコの時間が取れなくなりその後10数年のブランクがあるといいます。

♪「越谷アコーディオンサークルかえるのこ」と出会い本格的にはじめる

40歳のころ“せっかく始めたんだから一定のところまでやりたいなあ”と思って地元で見たチラシに載っていた草加の教室を訪ねた

ら、そこに音楽センターに習いに行っている人がいて現在の教室を紹介される「かえるのこ」ができて2年目だったと思う。『10人ぐらいいたかな、先生や保母さんが多かった、小学校や保育園で子どもたちとアコ伴で歌を歌っていたみたい』と、そこで松永勇次先生と出会い本格的にはじめたそうです。

♪半分仕事でアコ伴することに

定年前の4年間老人ホームの家と児童館が一緒になった福祉職場に勤務、異動になってすぐ、たまたま老人ホームに集まってくる人たちが童謡や唱歌を歌いたいという人がいて、職員がどこからか田中さんがアコーディオンを弾くことを聞きつけ、半分仕事で定年まで続けられたことは幸運だったといいます。

♪職場のつながりで声が掛かる

市役所に勤務していた関係で、生涯学習とか伴奏講師にと現在、公民館など3箇所まで弾く他、11月になると市が主催する金婚式のお祝いのアトラクションにも声が掛かり、これには退職してから毎年参加している。年金組合会長さんから声をかけられて行ったつどのつながりで、昨年は紫金草合唱団に付いて南京まで行かれた等々、『どこも我々の年代の人が中心ですが大きな声で歌って結構楽しんでますよ、今年は町会の祭りでも伴奏しました』と定年後ますます活動範囲が広がっているようです。

♪伴奏は楽しい、…結構大変だけど

自分が持っている譜面では使えないものが多い、音域は自分で直して歌えるようにそれが結構大変なんですよ…『楽譜を見て弾くのができないたちで、覚えちゃわないとだめ、見たところでどンドン進んでいくんだから止まるわけにはいかない、だからしょっちゅう弾いてないとだめですね』また、『覚えちゃえば自分の気持ちだとかを出すことができるん

で、そんな練習をしている、和音を付けたりベースソロをしたり“おかず”を入れたり伴奏って面白い、自分で独自の編曲ができるからね』といいます。

♪昨年、リサイタルを開く

一期生で埼玉の草分けなんだからと仲間たちが気を使い企画してくれたとのことでした。

(記者も聴きに行った。落語家の桂小南治さんによる進行も素敵でしたし、何よりもソロはすべて暗譜で演奏するのを見てすごいなあと感じたのを覚えている)、そのことについてお聞きすると…

ソロは、基本的に人の前でやる場合は暗譜じゃないとまずいんじゃないかと思っているそうです。

『自分でもよくあれはひっかかって止ま



ソロは全て暗譜で演奏

んなかったなあ、ごまかしても最後まで行っちゃった』『ソロは9曲だったと思うけど伴奏やアンサンブルで20曲ぐらいやったかなあ、恥はいくらでも掻いてきましたから今更何処へ行ったって大丈夫だと思えて、確かにそういうのはずうずうしくなりましたね』『リサイタルの、あの構成はとてもよかったと皆さん言ってくれましたし、大勢聴きに来ていただいて大変感謝しかったです。しかし、ああいう思いはもうしたくないですね』とも…



松永勇次講師(左)柴崎和圭講師(右)と一緒に演奏

♪サークルや家での練習は

先生には、昔やったのをしっかり弾けるようにしたいのと、古いもの引っ張り出して見てもらっているそうです。家では、一つの

曲を繰り返し練習していて気分が乗らないといやになってくる。そんな時伴奏の曲(簡単な曲を数曲)何回も弾く、そうすると不思議とやる気が出てきて難しい曲にも取り組めるのだそうです。

また、伴奏する機会が多くなってきたことで易しい曲だけどころんな調で弾いてみたりと意識的に伴奏の練習をしている、いつでも10曲をレパートリーにしようと思うと結構大変でなかなか新しい曲にかかれなるとも…

サークルでは、土曜日が中級のレッスン日で、隔月の第1日曜日に13:00から2~3時間伴奏講座を開いているそうです。和音や音階練習、階名で歌ってみたり自分ならどう付けるかとか、やろうとすれば出来ちゃうよといっています。『楽譜がないと弾けないというのは思い込みだと思う』とも、練習を始める前に「チューリップ」のような易しい曲で半音階の上り下りを両手で弾くとか、階名で歌ってみるとか工夫しながら後輩の指導に当たっているとのことでした。

♪協議会の様子についてお聞きしました

埼玉アコーディオン協議会には「ウインドバスカーズ」「川越アコーディオンサークルたんぼぼ」「越谷アコーディオンサークルかえるのこ」「春日部アコーディオンサークル」「新座アコーディオンサークル」の5つサークルがあり、二~三年の間に皆誕生したそうです。夏には毎年総会をかねて合宿を行っていて、今年の合宿は第25回です。比較的人数の多い三つのサークルが持ち回りで担当しているとのことでした。

♪最後に

どちらかといえば苦しいことのほうが多かったが、ここ5年くらいは音楽って楽しいなあと思えるとの一言でした。

□古典落語、将棋、中国語、釣はなんでもと趣味は多彩のようですが、時間もなくなったとかで今はお蔵入りだそうです。資料をいくつも持参され、アコを愛し他人を思いやる温かさが伝わってくるお話をたくさん伺うことが出来ました…ありがとうございました。

(文:乙津)

